



「病気になってありがとう。やっと人間になってきたような気がする」。そう話すのは、NHK番組27 アワーで突然インタビューされたおばあさん。生地とボタンを豊富にそろえてあるお店で、熱心に生地を選んでいた人。趣味で始めた手縫いのものづくり、今日はカバンの持ち手の生地を選んでいのだと話していた。次々と膨らむ思いを語るおばあさんの目は輝いていた。

どうやらこのおばあさん、癌の治療中だということが分かったが、何気なく話され何気なく流されていった「癌になってありがとう」「やっと人間になってきたような気がする」という言葉に、おばあさんの確信めいた深い人生観を感じ取ることができた。

それは「癌」という縁によって「人間になってきたような気がする」と受け止められる世界が開けてきたということであろう。また、それは煩悩を捨てきれない救われようのない自分であったという目覚めでもあるのだろう。自力ではどうにもならない世界から、「ほとけさまのおはたらきのままに」への思いが、きっと病苦を開放し今の一瞬を感謝し喜びをもって生きる姿に変えられたのであろう。あの笑顔が、そう物語っていたように私には思えた。

ここ「生地とボタンの店」には多くの人々が訪れてくる。500万種のボタンの中から、「私らしさを探す」と言っている人もいたが、みんな自分探しの旅を一生続けていくのかもしれない。

現代の妙好人をめざそう

M・M

表題の「現代の妙好人をめざそう」は、平成二十一年・光受寺がホームページを始めに果たして、最初に掲げられた言葉です。ご住職の念頭にあったのは妙好人への深い関心であったと思われまします。その後、平成二十三年には禅の思想を世界に紹介された鈴木大拙先生が「妙好人」を発刊され、浄土真宗が輩出した妙好人は一躍注目されるようになりまします。

平成二十六年には、富山県五箇山にある行徳寺を訪ね、開祖の赤尾道宗の事績を学びました。島根には浅原才一、鳥取には足利源左、そして香川・板出には谷口庄松など、歴史に名を残す妙好人が出ています。共通する特徴は、無学で文字も読めない人もおり、学問的に理解する立場になかったこと、ともに貧しい生活をしながら一方で並み外れた感性の持ち主で、御仏の慈悲を鋭く感じとる能力をそなえていました。

現代は知的水準が高まり、物事を知的に理解しようとする習性が身につけていますが、その分、感情領域を捉える「感性」は貧弱になっていいると思われまします。情理調和と言われますが、正しい仏教理解がすすまないのも感性の弱まりがあるのではないのでしょうか。このようなことから、現代の妙好人をめざすには豊かな感性を育むことが前提になります。そこで私どもはもともと自然を見つめ、自然の営みの中からまもり育てて止まない慈悲の心を感じとるようにはと思ひます。自然界は命を生み出し育てる「生成化育」の働きがあります。これが慈悲の根源です。仏法の慈悲も自然の慈悲に根差すものです。

自分の体の働きを見ても、呼吸器系、消化器系、血液循環、神経系ホルモン分泌など複雑極まりない働きが統合調和されて健康を保っています。その高度な複雑さは、人智をはるかに超えた神業の領域であり、まさに他力の世界であることが分かります。

私どもはこの自然の働きに深く思いをいたし、守り育ててやまない広大な慈悲に敬虔・感謝の念をもつ生活を営みたいものです。



来年の梅は

さみしい感じになり

そうです。



理由はよくわからないのですが、今年が芽の出が悪く、全くさみしい感じになっています。

ほかの梅も同じような感じのものが多く、観梅会ができるのかどうか心配です。

これも自然なので仕方ありませんね。

今月の掲示板

弔辞・弔電の言葉

「故人様の

ご冥福をお祈り

いたします」

真宗では使いません。

こんな花が咲いて

います。(山紫陽花)

紫陽花が見ごろになってまいりました。

墨俣堤の紫陽花を見にお越しの折にはぜひお立ち寄りください。

境内に咲く紫陽花

光受寺境内



数十種類咲いています。



「冥土とは死者がさ迷う場所であり、真宗という浄土とは全く異なる世界です。冥福(冥土での幸せ)を祈るとは冥土でさ迷うことなく、無事に転生できるようにと願うことなのでしょう。真宗では疑うことなくお念仏を信じ唱えれば、死後は浄土に生まれるという教えがありますので迷うことはないのです。

また「天国」とか「安らかに眠る」とか言う言葉も使わないほうが良いと思います。使うとすれば、「哀悼の意を表します」、「お悔やみ」、「ご愁傷」を使えば問題ないと思います。宗教、宗派によっても異なりますのでよく確かめてからお使いください。

新「ナー」

「自然散歩」が始まります。

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれています。その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと思われます。

1回目

自然散歩



私は毎日墓参に行っていますが、行き帰りの道端の草の生育や田圃の様子を観察するのを楽しみにしています。最近発見したのは、苔類の生命力です。墨俣病院の前の田圃道を20mほど南へ行くとアスファルトの路面に白い斑点模様が現れます。これは苔類の仲間、立派な植物なのです。どんなに乾いても枯れることなく、乾きに耐えて生き続けます。地球上にいつ頃から現れたのか、とにかく原始生物として今も繁栄している姿には頭が下がります。この下等植物には蘚類と苔類があり、蘚類は苔類から進化した形で、茎が伸びあがるのが特徴です。併せて「蘚苔類」と言います。折をみて一度実際に現地で観察されてはいかがでしょう。

樹林



学習会・茶話会の再開

今月より光受寺学習会、および茶話会を開始したいと思います。とはいえまだまだ「コロナ」への油断は大敵です。

参加者の皆さんはマスクをつけてのご参加をお願いいたします。